



第6図 観測代表点の選定位置

E), (D, F), 寒候期は (C, D), 銅山川では年を通じて (G, H), (I, J) が適当な代表点とし選ばれるわけであるが, F 点は山岳部で適当な道路もないので施設に困難, また, I, J 差は精度としては悪くはないが F の観測としてあまりにも離れすぎているので, F, I, J の各地点は代表点として選ばない方がよいと思われる. 結局, 調査結果から降水量観測代表点は第5表及び第6図に示した場所を選ぶことができる.

以上の調査はこれらの集水域内の観測点は少なかつたにもかかわらず, 描画した等降水量線は絶対的に正確な

ものとして取扱ったのである. 観測点が山地または平地にも現在以上に多いならば等降水量線の型は若干変るものと思われるので観測点の増加に伴う平均降水量の変動<sup>9)</sup>などについても調査すべきであった. また代表地点を二つ以上選んで求める面積平均降水量の推定式は実際にあまり意味がない場合がある (推定式の項が多ければ推定式から算出した降水量の値と推定式の観測点の降水量算術平均値とはほとんど同値である) ので代表点を2点にしぼったのである. 一方面積平均降水量は2点の算術平均で満足されるということは一般性を失なわれがちであるが推定式を求めるのではなく精度を問題にしているのであるから敢えて簡便法を用いた.

終りにのぞみ調査について指導していただいた内海技術部長始め種々検討して下さい藤沢, 吉田両課長ならびに小林 (勉) 技官に厚く御礼申し上げます.

参考文献

- 1) 内海徳太郎: 降水分布と代表地点. 気象研究ノート, 10巻3号.
- 2) 篠原武次: DDA 分析について. 雨量の観測と予報 (資源調査会編) 1956, 日本気象学会.
- 3) 小林勉: 平均雨量計算値の誤差と雨量計の数及び計算法との関係. 昭和32年夏期 (第5年度) 只見川上流域水文気象調査報告 東北電力K.K. 仙台管区気象台.
- 4) 高橋正吾: 赤川集水域における雨量観測網について. 最上川水系基本調査報告書1957山形県.
- 5) 土屋正一: 寒河江川流域における雨量観測網の決定について. 研究時報, 11巻2号.

日本学術会議第32回総会について御案内

日本学術会議第32回総会を別紙により開催いたします. 総会は公開ですから関係各位の傍聴を希望いたします.

第32回総会日程(案)

日	時	9.30~12.00	13.00~15.00~17.00	17.00
10.26	(水)	1. 会長経過報告と簡単な審議 2. 各部経過報告 3. 各委員会経過報告	1. 科学技術への諮問第1号の答申に関して 2. 大学制度 (特に大学院) の問題について (予定)	
10.27	(木)	1. 各 部 会	諸提案について審議	運営審議会
10.28	(金)	1. 諸提案について審議	1. 諸提案について審議	各部会 (各委員会) 運営審議会